活躍する総合防犯設備士

岡山県防犯設備業防犯協力会　事務局長　総合防犯設備士
株式会社セキュリティハウス㈱(岡山) 代表取締役　防犯アドバイザー　　小野　真司

私の所属する岡山県防犯設備業防犯協力会は、昭和56年６月に岡山県警察本部のご協力により発足いたしました。主に防犯機器の製造、販売、施工等を行うとともに、社会公共の安全に寄与すべく、各種防犯活動にも積極的に協力しております。また、防犯設備業の健全な発展を期し、会員相互の親睦と協調を図り、現在27社の会員で活動しております。

活動内容として、春・秋･歳末の防犯運動期間中の、防犯展 及び 警察学校の専科における防犯設備機器講座をはじめ、金融防犯会議、深夜営業店、自動販売機業などの防犯会議での講演等の活動を行っております。

私は、昭和50年度の５月に防犯設備業の事業を始めようと決意し、横浜の防犯機器メーカーに入社、昭和52年の５月に岡山へもどり、父の経営する建設会社に防犯部を設立いたしました。

これが、私にとっての創業で、昭和59年11月に株式会社セキュリティハウス岡山を設立し現在に至っております。

当初１ヶ月50万円の売上げ目標を立てましたが、１年間達成することが出来ず、年間の仕入も60万円という有様でした。訪問営業を毎日繰り返すなかで、ある陶芸作家の工房を何度も訪問していた時のことです。その陶芸作家はいつも話しを聞いてくれますが商品の販売にまでは至りませんでした。その理由はこうでした。

「あそこに自転車に乗っている人がいるでしょう。この田舎では、あの人は誰かな？何をする人かな？どこへ行くのかな？と、町内の人がみんなそういう意識を持って見ています。みんなが見ているところでは悪いことは出来ません。だから防犯設備は必要ありません。」

これは、「向こう３軒両隣」は地域でのコミュニケーションがとれていた古き良き時代のお話しだと思います。しかし現在は、隣の人が誰なのか、何をしている人なのかも知らずに生活していることが多く、犯罪者にとっては、絶好の環境と言えるのではないでしょうか。

昨年中の岡山県における侵入窃盗の現状をみると、住宅対象が全体の約50％を占め、その主な侵入口は窓、事務所・商店などでは出入り口、主な侵入手段は、いずれもガラス破りと無締りです。

住宅での無締りなどは、少しの外出でも戸締りをすること。事務所・商店などでは、社員通用口の施錠の徹底や、最後の人が退社する時には複数で帰宅するなど、防犯の意識を向上させることで、今日からでも実行することができると思います。

地域安全活動を進めるには、地域の１人ひとりが「自分の安全」「家庭の安全」「地域の安全」を考え、地域の連帯感を強め、自らの安全は、自らで守るという自主的なボランティア活動を推進することによって効果が上がります。防犯設備だけに頼らず、少し周りの人や物に興味を持ち、防犯意識を向上させるだけでも、立派な防犯対策と言えるでしょう。

そこで、私たちはそのバックアップとして、警察をはじめ、自治体や地域団体と協力·連携し、『犯罪のない安全で安心なまちづくり』活動を推進しております。私たちは私たちに出来ることで、１人でも多くの防犯意識を高め、より「犯罪の起きにくい社会づくり」の実現を目指しております。

その一環として、地域イベントでの防犯に関するパネル展示や防犯機器の展示説明 及び 機器の使用体験やデモンストレーション、講演会、防犯相談や防犯診断、防犯ハンドッブックや防犯機器のカタログの配布、協力会員の各車輌への「防犯パトロール実施中」ステッカーの貼示などを行っております。

こうした活動により、更なる防犯意識の向上と、当協力会の認知度向上が期待できるのではないかと考えております。

今後も防犯機器の調査開発研究と優良防犯機器の普及促進を行い、最適な防犯システムの御提案を行うため、防犯カメラシステム·防犯侵入警報システム・出入管理システム·鍵·防犯ガラス·金庫·防犯灯等の幅広い機器知識を養い、経験を積み、常に防犯機器や犯罪状況に対する新しい知識を持つための努力を怠らず、邁進して行く所存です。

当協力会には、総合防犯設備士·防犯設備士が多数在席しております。その責務と誇りを常に意識し、地域へ貢献できれば幸いです。

筆末となってしまいましたが、25周年記念誌への寄稿の機会を戴き光栄に思います。日本防犯設備協会 及び会員各位のご活躍とご発展を心よりお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。